

# オランダ東インド会社日本商館文書における肥前磁器貿易史料—1650～70年代の医療製品取引に関する史料研究の再考—

櫻庭美咲

## 1 肥前磁器とその輸出

佐賀県の有田、大川内、吉田、長崎県の波佐見、三川内、長与、亀山などはやきものの産地である。磁器は有田の西部地区の窯場で1610年代に創始された。陶磁史では、この地方で焼かれた磁器を総称して肥前磁器という。

1650～1757年の間、オランダ東インド会社は肥前磁器の大規模な輸出をおこなっていた。公式貿易の記録上、輸出量のピークは1660、70年代である。輸出品のなかでも西欧諸国の王宮に伝わる質の高い肥前磁器はとりわけ知名度が高い。しかし実際、輸出品はヨーロッパの有産階級のための装飾品や食器のみならず、医療製品のような実用品、そしてアジア各地や中近東に向けた商品もあり、質、器種、輸出対象地域ともに多様性に富んでいる。

## 2 肥前磁器貿易の史料研究史

これまでわが国において、工芸品の貿易を対象とした「東インド会社文書」の史料研究が最も本格的に行なわれたのは、日蘭貿易の染色品についてであると思われる。染色史の領域では、日本、オランダ双方の文書原文を公開し、解析する壮大な研究が石田千尋氏によってなされた。しかしながら、陶磁史の専門家の間では原文に着手する本格的な研究が萌芽することはなく、陶磁史の研究者たちは他領域の研究者による文書研究を参考にしてきた。使用頻度の高い研究三例を挙げる。

(1) まず、1954年にオランダ人民族学研究者フォルカー氏が発表した著作“*Porcelain and the Dutch East India Company as recorded in the DAGH-REGISTERS of Batavia castel, those of Hirado and Deshima and other contemporary papers 1602-1682*” (英語版) が同研究の先駆けとなった。わが国でも1979～84年にその邦訳が前田正明氏によって紹介されたことから、フォルカー氏の研究は多くの国内研究者に活用されるようになった。研究対象は17世紀中国・日本双方の磁器貿易で、対象とする地域はオランダ、アジア全域、中近東までカバーされ、広汎にわたる。西欧でも頻繁に活用される貿易陶磁史料研究の代表的な資料で、日本でも近年に至るまで学術論文上の引用頻度が高い。

(2) 1988年には近世貿易史研究の山脇悌二郎氏が、『有田町史 商業編 I』(1988年)に発表した論文により、1650年より1757年までの各年の輸出数量、器種別数量について、東インド会社文書を根拠として統計的に示し、長崎港から出荷された「本方荷物」の輸出磁器のおおまかな全体像

を初めて明らかにした。氏の研究は、ほぼ通年的に現存する仕訳帳全部を中核にした、集約性の高い首尾一貫した内容で、国内の肥前磁器研究者の基礎文献として極めて重視されている。ただし、先述の文書以外の文書や日本と直接交易していない地域については刊行物の目的に合致しないという理由から対象外となった。そのため、山脇氏が触れていない地域の貿易に関しては、専らフォルカー著作以外に参照できる資料はないことになる。

(3) 1990年頃からは、オランダの漆芸貿易史研究の第一人者であるシンシア・フィアレ氏が、日本・オランダ間の磁器貿易の史料を調査している。2000年には論文「オランダ向け日本磁器：オランダ東インド会社の記録」の邦訳が九州陶磁文化館展覧会図録に掲載され、オランダ向け磁器輸出に関する重役会議の決定などを初めとする多くの新情報が詳細に紹介され、オランダ語原文送状の全文も掲載された。わが国の陶磁史の領域において送状の全文が公開された前例はなく、その意義は甚大である。なお、この発表はオランダ向けに限定され、その他の地域への輸出はふくまれていない。

### 3 肥前磁器輸出開始直後 1650年代の貿易

輸出開始直後、1650年代の取引に関していえば、輸出品の大半はバタヴィア、タイワン、マラッカにあるオランダ東インド会社の商館付属医療施設のために注文された医療製品（例：病院など医療施設で使われる薬壺や薬瓶など）であった。

1650年代の医療製品に関する製品研究の成果は、考古学の窯跡の発掘で発見された資料が中心である。しかし現在まで、年代決定可能な考古資料は非常に少ない。考古資料の詳細については2002年発行の鹿島美術研究年報に掲載された藤原友子氏の論考（櫻庭美咲・藤原友子「日蘭貿易における陶磁史料の研究—肥前磁器製医療製品を中心に—」）で発表された。

文書研究側では、1650年代の医療製品の存在を最初に具体的に示したのは山脇悌二郎氏であった。ただし『有田町史』では出版形式や紙数による制約のため、個別の輸出数量を示すことのできる器種が制限され、どの器種が何個輸出されたのか、という具体的な内訳は述べられていない。フィアレ氏も論文（2000年）で1650年代の医療製品の輸出について言及したが、具体的な数字は挙げられなかった。このテーマが本格的に取上げられることはなく、そうした状況が1650年代に位置づけるべき製品の編年研究を困難にしていたと思われる。

しかし輸出最初期の貿易を理解したいと発想するならば、1650年代の肥前磁器輸出に関する記録が必要なことは言うまでもない。そのため本研究ではオランダ東インド会社日本商館文書（東京大学史料編纂所所蔵のマイクロフィルムを使用）を対象とし、特に送状と仕訳帳を中心にその調査を試みた。さらに、1650～70年代の医療製品についても器種別の数量を把握し（表1）、それを磁器の公式貿易の全体像のなかに位置づけた。

### 4 1652～59年までの医療製品輸出に関する送状・原文と試訳

ここでは肥前磁器輸出開始直後の1650年代に輸出磁器の中心となった医療製品を長崎からバタヴィアへ運んだことを示す送状の原文ならびに試訳を紹介する。また、同時期にバタヴィアより長崎へ運ばれた医療製品の瓶を作るための見本に関する送状も発見されたので、あわせて掲げることとする。

①1652年10月31日 長崎発台湾行きコーニング・ファン・ポーレン号の送状

原文) 1265. stx. groote en cleijne medicament potten in 2 cassen gepackt costen t'zamen  
T.41.-.- f.116.17.-

試訳) 1265個 大小の薬壺 2箱に梱包 合計金額 41.-.-テール f.116.17.-

出典) Factura van de coopmanschappen gescheept door Adriaan van der Burgh Coopman  
ende Opperhoofd deses compt. in Den Coningh van Polen naar Taijouan, Nangasackij  
ult. Oct, 1652. (NFJ 776)

②1653年7月25日 バタヴィア発日本行きヴィッテ・ファルク号とハーゼ号の送状

原文) 6. p. diverse modellen om flessen naer  
te maken voor de chirurgijns winckel ongetacxt.

試訳) 6個 (バタヴィアの) 外科治療所向けの瓶の見本となる様々な原型 評価せず

出典) Factura van de coopmanschappen gescheept door Heer Gouverneur-Generael, ende  
d'E.E. Heeren Raaden van India in de Witte Valck ende de Hase naar Japan, in't  
casteel Batavia 21. Julij, 1653. (NFJ 777)

③1653年11月11日 長崎発台湾経由バタヴィア行きヴィッテ・ファルク号の送状

原文) 2200:stuck: diverse porceleijne fleskens, potjens, zalf en concerff potten  
voor Batavia volgens d'overgesonden monsters alhier gemaect,  
bastaende in 54 packjens en costen als volgt

1200:stucx cleijne fleskens, en potjens, in 13 packen

à 4.condn jder comt T.48:-:-

1000:stucx zalf en concerff potten, drierhande sorteringh  
bastaende in 41 packjens tot 5 maes de gesorteerde  
3. stuck comt....."166.6.6.

T.214.6.6 f.611.15.10

試訳) 2200個 様々な磁器製瓶、小壺、軟膏用および保存用の壺 バタヴィア向け。  
送付された原型に基づき当地で製作し54の小包に梱包。値段は以下の通り。

1200個 小瓶および小壺 13包

4コンドリン/個 合計48:-:-テール

1000個 軟膏および保存用の壺 三種類のもの  
41包に梱包。5マースに選別した  
各3個 合計166:6:6テール

214:6:6テール f.611.15.10

出典) Factura van de coopmanschappen gescheept door Frederick Coijett Coopman ende  
Opperhoofd deses compt. in den Witte Valck, naar Taijouan geconsigneert aen de  
Heer Cornelis Cesar extraordinarij Reat van India ende Gouverneur des eijlants  
Formosa, Nangasackij 11. Nov, 1653. (NFJ 777)

④1654年7月13日 バタヴィア発長崎行きカルフ号の送状

原文) 3. Monsters van fleskens van welcken fatzoen van elcq 600 Ps. voor de  
Chirurgijns winckel alhier gevordert worden.

.....in handen van Sr. Winnix ongetax:-

試訳) 3個 瓶を製作するための原型

当地の外科治療所からの注文によりこの見本と同じ方法で各600個作るように

ヴィニックス氏の手荷物として 評価せず

出典) Factura van de coopmanschappen gescheept door Heer Gouverneur-Generael: Joan  
Maetzuijcker, en d'E.E. Heeren Raaden van India, in het Kalff naar Japan, in't  
Casteel Batavia 13. Julij, 1654. (NFJ 778)

⑤1654年10月25日 長崎発タイワン経由バタヴィア行きブレダ号の送状

原文) 3745 stux: conserfpotten, cleijne fleskens ende potjens voor de Chirurgijns  
winckel van Batavia expres van hier gevordert alle bastaende  
in 35 packjens en gemt. P.P. namentl.

305 stx: salff en conserff potten in 11 packjens, zijnde  
in 5, 125. ende in 6. packjens den zalven 180 stx: gepackt  
kosten à 8. cond. ider ..... T. -24.4.-

1640 stx: diversche sorteringe, cleijne fleskens ende potjens bastaende  
in 18 packen, kosten door een  
2. cond: ijder .....T.: 32.8.-

1800 stx: cleijne fleskens vsn drierderhande sorteringe conform de  
modellen desen Jare per 't Calff van Btava.  
becomen: gemaectt, bastaende in 6. packen ider -  
inhoudende 300 stx: à 15 stx: voor 1. maes zijnde  
gemerckt als boven compt. ...." 12.-.-

3745 stx: potten en fleskens kosten 'tsamen ...T. 69.2.- f.197.4.6

試訳) 3745個 保存用壺、小瓶およびバタヴィアの外科治療所向け小壺。特に当地から送る35  
個に全て分けて梱包し、P.P.と記されている。すなわち、

305個 軟膏用および保存用の壺、合計11小箱。

内訳：125個入り5小箱、180個入り6小箱。

1個に付8コンドリン 24.4テール

1640個 様々な種類の小さな瓶や壺。18箱に分けて梱包。

1個に付2コンドリン 32.8テール

1800個 今年取り寄せ、カルフ号でバタヴィアから到着した3種類からなる見本に  
従って作らせた小瓶。各々300個ずつを納め6箱とする。1マース/15個。

上記のように記されている。 12.0テール

---

3745個 壺および瓶 合計 69.2テール f.197.4.6

出典) Factura van de coopmanschappen gescheept door Gabriel Happart Coopman ende Opperhoofd deses compt. in de Breda naar Taijouan, Nangasackij 25. Oct. 1654. (NFJ 778)

⑥1654年10月31日 長崎発台湾經由バタヴィア行きカルフ号の送状  
原文) 513. P.s zoo salff als conserff potten, voor de Chirurgijns winckel op Batavia bastaende in 29. packen alle gemt. S.P. costen 'tsamen  
T.43.-4 f.122.13.4.

試訳) 513個 軟膏用および保存用の壺 バタヴィアの外科治療所向け  
29包に梱包。すべてにS.P.と記されている。

合計 43.-4テール f.122.13.4

出典) Factura van de coopmanschappen gescheept door Gabriel Happart Coopman ende Opperhoofd deses compt. in het Calff naar Taijouan geconsigneert aen de E.Heer Cornelis Cesar extraordinarij Reat van India ende Gouverneur des eijlants formosa, Nangasackij 31. Oct. 1654. (NFJ 778)

⑦1655年10月21日 長崎発台湾經由バタヴィア、台湾行きアンヘリクス号の送状

原文) 3209: stucx: zoo salff ende conserf Potjens mitsgaders cleijne Porce-  
leijne fleskens te weten -

502: p: do potten eerste soort bastaende in ....21: packjens

480: p: do potten tweede soort bastaende in ....16: packjens gem:P:

504: p: do potten derde soort bastaende in ....12: packjens

1509: p: salff ende conserfpotten à 8: condreijn 't stucq ...T.120:7:2

1700: p: cleijne Porceleijns fleskens bestaende in 4: Packjens

ende gemerckt .....à 2. condreijn 't stucq....." 34:-:-

3209: p: potten en: fleskens porcelijn wercq 'tsamen ..... "154:7:2: 440:19:-

試訳) 3209個 軟膏用および貯蔵用の小壺、ならびに小さな磁器の瓶 すなわち

502個 第1番目の種類のもの 21小箱

480個 第2番目の種類のもの 16小箱 'P と記載すること

504個 第3番目の種類のもの 12小箱

1509個 軟膏用および貯蔵用の小壺。1個に付8コンドリン 120.7.2テール

1700個 小さい磁器の瓶。4小箱。1個に付2コンドリン 34.0.0テール

3209個 磁器でできた壺および瓶 合計 154.7.2テール f.440.19

出典) Factura Angelicx naar Tayouan, Nangasacqui Adj 21: October a: 1655. (NFJ 779)

⑧1656年10月22日 長崎発台湾行きコーニング・ダヴィッド号の送状

原文) 2003stx: Porceleijne groote en cleijne zalf ende conserf potten mitsgaders cleijne  
fleskens gepackt in 3 cassen ende gemerckt, voor de chirurgijns

Winckel in Taijouan bastaende en costende als volcht -

683 stx: grove Do à 8. condrijn ijder..... T. 54.6.4  
230 stx: wat cleijnder à 5. condrijn ijder.... T. 11.5.-  
1090.p: noch cleijnder à 2. condrijn ijder.. T. 21.8.-

87:9:4 250:12:9

試訳) 2003個 磁器製の大小の軟膏用および貯蔵用壺 ならびに小型の瓶  
これらを3箱に梱包し、台湾の外科治療所向けと印をつけること。  
状態と値段は下記のとおりである。

683個 粗製の上記の壺 1個に付8コンドリン 54.6.4テール  
230個 やや小さめの壺 1個に付5コンドリン 11.5.0テール  
1090個 さらに小さい壺 1個に付2コンドリン 21.8.0テール

[合計] 87.9.4テール f.250.12.9

出典) Factura van de coopmanschappen gescheept door Joan Boucheljon coopman ende Opperhoofd deses comptoirs in de Coninck David, schipper Cornelis Martensz, naar Taijouan, Nangasacqui 22.oct. 1656. (NFJ 780)

⑨1656年11月2日 長崎発バタヴィア行きアーフォントステル号の送状

原文) 2136 Stx = Porceleijne potten voor de Chirurgijn Winckel costen tsamen...99.6.2., 283.18.5

試訳) 2136個 外科治療所向け磁器の壺 合計.....99.6.2テール f.283.18.5

出典) Factura van de coopmanschappen gescheept door Joan Boucheljon coopman ende Opperhoofd deses comptoirs in Avondsolar(=ster), schipper Jacob Hont, naar Batavia, Nangasacqui 2.nov. 1656. (NFJ 780)

⑩1657年10月25日 長崎発台湾経由バタヴィア行きドムブルフ号送状

原文) 3040:stx: medicament en zalfpotten, bestaende in 61. packen voor de  
chirurgijns winckel op Bata. alle gemt. M.P. te weten.-

1720.stx: ordinarij potten in 13 balen à 8 condn. ijder. T 137:6:-:

1320.stx: cleene dos.: in 18 balen à 5: condn. ijder. " 66:-:-:

3040.stx: monteeren tzamen..... T.203:6:- f.580:5:3

試訳) 3040個 薬用および軟膏用壺 61包  
バタヴィアの外科治療所向け 各々M.P.と記載すること

1720個 普通の壺 13包 8コンドリン/個 137.6.-テール

1320個 小型の同上の品 18包 5コンドリン/個 66.-テール

3040個 すべての合計 203.6.-テール f.580:5:3

出典) Factura van de coopmanschappen gescheept door Zacharias Wagenaer coopman ende Opperhoofd deses comptoirs in [de] Domburgh, schipper Frans Hendricksz, naar Taijouan, Nangasacqui, 25.october. 1657. (NFJ 781)

①1658年10月23日 長崎発バタヴィア行きトロウ号送状

原文) 4800:stucx: medicament potten en flesjens van diverse soorte voor de chirurgijns winckel op Batavia gepackt in 9: vaderlantse Cassen en 2: suijckerkisten gemerckt van No.1: tot No. 11:

costen tzamen.....T.281.2:- f.801.8.6

試訳) 4800個 薬壺および瓶 様々な器種 バタヴィアの外科治療所向け

9つは祖国の箱、2つは砂糖用の箱につめられ、1番から11番の番号を記してある。

合計 281.2.-テール f.801.8.6

出典) Factura van de coopmanschappen gescheept door Joan Boucheljon coopman ende Opperhoofd deses comptoirs in de Trouw, schipper Elbert Hes, naar Batavia, Nangasacqui 23.october. 1658. (NFJ 782)

②1659年10月25日 長崎発タイワン行きブレウケレン号の送状

原文) 508. stux Olij fleskens en Salffpotten in een cas gemerckt VOC te weten.

182. stx Olijfleskens houdende 1 once yder costen tsamen T.3.-

30. stx salffpotten houdende 1 1/2 pond costen.....2.4.-

76. stx houdende yder 1 pond costen.....5.3.2

76. stx houdende yder 1/2 pond costen.....3.-4

68. stx dos houdende 1/4 pond costen.....2.7.2

76. stx dos cleijne houdende 2 oncen yder costen.....1.5.2

508. stx olij fleskens en Salffpotten costen .....//

18.-// 51.6.-

試訳) 508個 油瓶および軟膏壺 VOCと記した箱1個に入っている。すなわち、

182個 油瓶 各1オンス入り 合計 3.- テール

30個 軟膏壺 1.5ポンド入り 2.4- テール

76個 [同上] 1ポンド入り 5.3.2 テール

76個 [同上] 0.5ポンド入り 3.-4 テール

68個 同上 0.25ポンド入り 2.7.2 テール

76個 同上 小型 2オンス入り 1.5.2 テール

508個 油瓶および軟膏壺 18.- テール f.51.6.-

出典) Factura van de coopmanschappen gescheept door Zacharias Wagenaar coopman ende Opperhoofd deses comptoirs in [de] Breukelen, schipper Jan Jansz. naar Taijouan, Nangasacqui, 25.oct, 1659. (NFJ 783)

③1659年11月4日 長崎発バタヴィア行きヒルフェルスム号の送状

原文) 3721 stux Salffpotten en fleskens voor de Chirurgijns Winckel op Batavia

in 90. packen en gesorteert als volgt

276. medicament potten	No:1. in 23 pakjens van 12 ps.	} a 8 condr jders	T.101.6.8
720.stx Do: weijnich cleender	No:2. - 36.pack van 20.		
275.stx Do: na 't monster	No:3. -11. pack van 25		
210.stx potten na 't monster	No:4. in 7 packjens en 30. à 7 Cr.	14.7.-	
640.stx potten	No:5.- in 8 packjens van 80. Ps. à 5 cond.	32.-.-	
1150.stx witte fleskens	No:6. in 5 pack à 2. condn....	23.-.-	
3721.stx salffpotten en fleskens in 90. packen costen.....		171.3.8	f.488.8.11

試訳) 3271個 軟膏壺と瓶 バタヴィアの外科治療所向け  
90包。内訳は以下の通り。

276個 薬壺	1番 各12個入り23小包	} 8コンドリン/個	101.6.8テール
720個 同上 やや小型	2番 各20個入り36小包		
275個 同上 見本に従って	3番 各25個入り11小包		
210個 壺 見本4番に従って	各30個入り小7包	7コンドリン/個	144.-テール
640個 壺 5番	各80個入り小8包	5コンドリン/個	32.0.0テール
1150個 白磁の瓶	6番 5包	2コンドリン/個	23.0.0テール

3,271個 軟膏壺および瓶 90包 合計 171.3.8テール f.488.8.11

出典) Factura van de coopmanschappen gescheept door Zacharias Wagenaar coopman ende Opperhoofd deses Comptoirs in Hilversum, schipper Jacob Jansz.: naar Batavia, Nangasacqui, 4.nov. 1659. (NFJ 783)

(注) グルデン (表記:f.) の記載は、1 gulden=20 stuijver : ストイフェル=320 penning : ペニングであるので、本来例えば f.488.8.11は、488グルデン 8 ストイフェル 3 ペニングと翻訳されるが、ここでは原文のまま記した。



## 5 17世紀におけるオランダ東インド会社の医療施設と肥前磁器製品の需要

17世紀より東インドにある会社の各拠点（バタヴィア、マラッカ、タイワンなど）には様々な医療施設があった。それは、①外科治療所 chirurgijnswinkel、②市民権を持つ会社の社員のための病院 's Compagnie's Hospital、③会社の兵士や船員のための病院 sieckenhuijs などがある。医療施設は、患者の階級により分かれていた。

医療施設で治療に用いる器具や薬が不可欠であることは言うまでもない。17世紀の場合、薬の保管に陶磁器製容器を用いることは一般的であった。肥前磁器製の薬壺や薬瓶などが注文され輸出されたのは、こうした需要に応えるためであった。

## 6 オランダ東インド会社による肥前磁器輸出数量に占める医療製品数の割合（1652～79年）

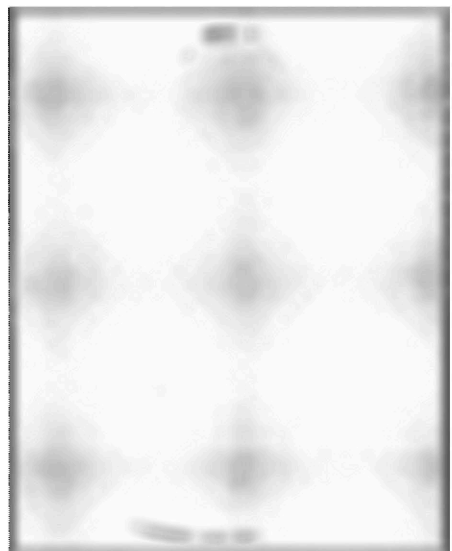
文書に記された医療製品の器種別数量を記した表1を用い、医療製品輸出に関する全体の流れを検討した結果、明らかとなった要点は次の2点である。

(1) 生産器種全体における医療製品の割合は、1652～57年まで100%、1658年に91%。1659年以降は、他の器種（例：食器・飾壺等）が増え磁器全体の輸出量が増加したため、医療製品の全体における割合は減少する。ただし、数の増減の幅は大きいものの医療製品の供給は続行されている。特に1668、1671、1674年は約2万個、1678年は約3万個を輸出している。

(2) 1650～70年代の数量把握できる医療製品のうち、最も多いのは軟膏用などの薬壺（84,188個・挿図1）であった。以下、「薬壺又は瓶」（45,297個）、瓶（21,990個・挿図2）、小瓶（2,440個）鬚皿（1,161個）、コップ（2,400個）である。このうち薬壺の数に仮に「薬壺又は瓶」の半数を加算すると106,836.5個となり、この数が医療製品全体に占める割合は67.8%という高い割合を示すことが判明した。



挿図1 染付幾何学文薬壺（出土遺物）  
肥前磁器  
1650年代頃 口径6.6cm 高6.8cm  
アムステルダム考古局蔵



挿図2 染付欧文字文瓶（底部にIC銘入）  
肥前磁器 1680～70年代  
口径3.7cm 胴径18.3cm 高23.7cm  
佐賀県立九州陶磁文化館蔵  
（山口幸雄・悦子氏寄贈）

表1 オランダ連合東インド会社による肥前磁器の輸出数量に占める医療製品数の割合

年代	輸出数量 (山籠)	輸出数量 記載資料	医療製品 全体	医療製品 割合	医葯製 品割合	医葯製 品(軟膏 /保存/薬)	また は瓶	瓶	神・香油 用小瓶	コップ ひげ皿	医療 用品	医療製品送り先	医療製品数量記載資料	本文中に記載された注文数 (納期年の項目に記載)
1650	145	仕訳帳	0	0%								—	なし	
1651	176	送状	0	0%								—	なし	
1652	2,200	仕訳帳	1,265	100%		1,265						タイワン	送状/NFJ 776	
1653	2,200	仕訳帳	2,200	100%		1,000	1,200					バタヴィア	送状/NFJ 777	
1654	4,258	仕訳帳	4,258	100%		305	1,640	1,800				バタヴィアの外科治療所	送状/NFJ 778	
1654						513						バタヴィアの外科治療所	送状/NFJ 778	
1655	3,209	仕訳帳	3,209	100%		1,509	1,700					タイワン	送状/NFJ 779	
1656	4,139	仕訳帳	4,139	100%		2,003						タイワンの外科治療所	送状/NFJ 780	
1656						2,136						バタヴィアの外科治療所	送状/NFJ 780	
1657	3,040	仕訳帳	3,040	100%		3,040						バタヴィアの外科治療所	送状/NFJ 781	
1658	5,257	仕訳帳	4,800	91%		4,800						バタヴィアの外科治療所	送状/NFJ 782	
1659	33,910	送状	3,779	11%		326		182				タイワン	送状/NFJ 783	
1659						2,121		1,150				バタヴィアの外科治療所	送状/NFJ 783	
1660	73,284	仕訳帳	3,429	5%		1,608	1,790			31		バタヴィアの外科治療所	送状/NFJ 784	
1661	52,807	バ日記	4,394	8%		4,394						バタヴィアの外科治療所	送状/NFJ 785	
1662	86,329	送状	3,617	4%						258		オランダ	送状/NFJ 786	
1662						3,359						バタヴィアの一般製剤薬局	送状/NFJ 786	
1663	55,874	バ日記	6,896	12%		6,896						バタヴィアの一般製剤薬局	1663, p.640	
1664	68,682	船荷証券	0	0%								—	なし	
1665	32,787	仕訳帳	2,821	9%		2,821						バタヴィアの一般製剤薬局	送状/NFJ 787	
1666	13,389	仕訳帳	7,164	54%		4,464		1,128		72	1,500	—	送状/NFJ 788	
1667	不明		0	不明								—	なし	
1668	40,329	仕訳帳	18,280	45%		600	200	3,600		100		マラッカの外科治療所	仕訳帳/NFJ 862	
1668						13,780						長崎商船長ランスタの私貿易 品、バタヴィアの薬局用に 同上	仕訳帳/NFJ 862	
1669	25,542	仕訳帳	600	2%		600						同上	仕訳帳/NFJ 863	
1670	48,536	仕訳帳	9,150	19%		7,100	1,800			50	200	バタヴィアの薬局	仕訳帳/NFJ 864	バタヴィアの薬局用9100 (軟膏壺・瓶)、 50 (ひげ皿)
1671	85,493	仕訳帳	18,200	21%		13,700	3,800			600	100	バタヴィアの薬局	仕訳帳/NFJ 865、長崎 商船毎日記/NFJ 84	バタヴィアの薬局用18200 (軟膏壺、瓶、 コップ)
1672	17,231	仕訳帳	30	0%		30						バタヴィアの薬局	仕訳帳/NFJ 866	
1673	11,498	仕訳帳	0	0%								—	なし	
1674	36,375	バ日記	20,375	56%		20,375						バタヴィアの薬局	1674, p.334, 335	
1675	6,007	バ日記	0	0%								—	なし	
1676	37,527	バ日記	0	0%								—	なし	
1677	50,404	仕訳帳	2,130	4%		1,600		530				マラッカの外科治療所	仕訳帳/NFJ 868	マラッカの外科治療所用 1600 (軟膏壺)、 600 (油用小瓶)
1678	不明	不明	31,500	不明		24,800	6,100			600		バタヴィアの会社の薬局	注文書/NFJ 307	バタヴィアの会社の薬局用 24800 (軟膏 壺)、6100 (瓶)、600 (水薬用コップ)
1679	50,561	仕訳帳	2,242	4%		1,500	50	600		50	42	バタヴィアの薬局	仕訳帳/NFJ 869	バタヴィアの製剤薬局用 2000 (軟膏壺)、 300 (小瓶)、50 (ひげ皿)、1000 (コップ)
合計	850,254		157,518	19%		84,188	45,297	21,990	2,440	1,161	2,400	42		

## 7 フォルカー氏による研究の影響力と翻訳語の問題

藤原友子氏は、その論考（櫻庭・藤原、2002）の中で、フォルカー氏が1954年に発表した研究で使用し、以後陶磁史の研究分野で一般的な陶磁用語となった「ガリポット」の使用をめぐる混乱の推移について明らかにした。この混乱は、フォルカー氏がオランダ東インド会社文書に記載された医療製品を意味するオランダ語の用語を英訳する際に、「ガリポット *gallipot*」という語を用いたことに起因する。「ガリポット」という語はイギリスで一般的に使用される用語ではないと思われる。そのため、意味の統一的な理解が容易ではなかったものと推測される。

藤原氏が紹介したこの用語の使用例を次に挙げる。まず、イギリスを代表する日本陶磁史の大家ソーム・ジェニンス氏は、その著書“*Japanese Porcelain*”（1965）においてフォルカー著作の挙げた「ガリポット」は「*Apothecary's bottle* 薬局用の瓶」を指すとし、図版で一般的な「瓶」の器形を挙げて説明した。一般的に言えば「瓶」とは、英語で *bottle*、オランダ語では *fles* といい、胴が球形に膨らみ口縁部が狭く、栓をして用いるための液体用容器の名称である。さらに後続のヨーロッパと日本の研究者らがこの説を踏襲したため、フォルカー著作の「ガリポット」は「薬瓶」であるという認識はわが国の研究者の間でも度々紹介され、定説化している。一方で、今日広く使用されるイギリスの陶磁辞典“*An Illustrated Dictionary of Ceramics*”（1992）のガリポットの項には「円筒形で軟膏やジャムや保存食、砂糖漬けのようなものための独自の小さな容器」と記され、瓶の器形は挙げられていない。2000年にはエスパー・エレン氏がイギリス東洋陶磁学会の会報紙上“*What is Galipot?*”と題した論考において、1653年に輸出された「ガリポット」はアルバレロ形のようなものだったろうとの推測を示したが、原典の記述内容を挙げる具体的な論証には至らなかった。

上記の問題提起に触発され、本研究では、フォルカー氏が著作で挙げた史料の原典を東京大学史料編纂所がマイクロフィルムで保管している東インド会社日本商館文書や『バタヴィア城日誌』（Colenbrander, 1887-1931）を用いて検討した。その結果、フォルカー著作（初版が英語版。オランダ語版はない。）上の“*gallipots*”の元の原文箇所の大半が“*salf potten*（又は *zalfpotten*）”などの壺であることを確認した。“*salf potten*”は、“*salfpot*（又は *zalfpot*）”の複数形で、膏薬などを入れる薬壺を意味する用語である。同時にフォルカーによる翻訳や転記の精度の不備も見いだされた。フォルカーの著作の原文と東インド会社文書の原文を対照するためにまとめた表2を参照されたい。

さらに加え、奇しくも藤原氏の上記の論考と同じ2002年11月に刊行された、オリヴァー・インピー氏の大著“*Japanese export Porcelain*”でも、この「ガリポット」という語が本稿挿図2のような医療製品専用の瓶の器形の名称として使用された。インピー氏は、この著作の医療製品専用の瓶（図版116）の説明として、*Gallipot* という語が1954年のフォルカー氏の著作のなかで、*fleskens*, *potjens*, *zalfpotten*, *consefpotten*, *cleine fleskens*（瓶、壺、軟膏壺、貯蔵壺、小瓶）といった形の異なる様々なオランダ語の翻訳語として使用されたと説明し、その上でこうした環状の突起付口縁部と球形の胴部をもつ特別な瓶の形をさす用語として、*Gallipot* なる語を使用すると述べている。この語はイギリスでは近年にいたっても、フォルカーが翻訳した東インド会社の原文の記述との不一致が意識されながらも、本研究で確認されたようにその大半が壺に関する形であることが指摘されることなく、おおらかに使用される傾向にあるようである。ちなみにこ

表2 フォルカー氏による訳語ガリポットと原文上の記述対照表 (1650~70年代)

No.	フォルカー著作 上の使用史料の 名称・日付	フォルカーによる用語ガリポット gallipot の用例 (括弧内は用例に関連する記述)	用例に対応する原文上の記述 (括弧内は用語のみの翻訳)	原文記述記載資 料
1	"letter" 1653.11.12	"2200 porcelain gallipots", ('Witte Valck' sails for Batavia via Tonking) p.125	fluit schip die Witte Valck in welcken geladen hebbe/[ ... ]/2200:stx apotheeckers potten voor Bata. (薬局用壺)	書翰 1653.11.12 NFJ 286
2	"Deshima register" 1654.10.03	"3745 gallipots and pots for preserves.", (shipped by the 'Breda' [...] and the 'Kalf'), p.125	3747 stux: conserfpotten, cleijne fleskens ende potjens (保存用壺、小瓶、小壺)	ブレダ号の送状 1654.10.25 NFJ 818
3	名称なし 1661.12.	"4394 gallipots", ('Vollenhove' arrives from Japan at Batavia), p.142	4394 stuxz zalfpotten (軟膏壺)	バタヴィア城日誌 1661.12.19, p.475
4	"general missive" 1662.12.26	"3359 gallipots, flagons, etc", ('Buyenskercke', 'Claverskerke' and 'Vollenhove' arrived at Batavia from Japan), p.146	3359.P <sup>2</sup> . Porcelejnen voor de generale Apothecq des castels Batavia (磁器)	フロンホーフエ号の送状 1662.11.04 NFJ786
5	"appendix" 1668.06.06	"600 gallipots"; (order) p.155	600 stuxz zalf potjens (軟膏壺)	書簡 1668.06.06 NFJ293-302
6	"Deshima writes to Batavia" 1669.10.05	"...gallipots have not been contracted for this year, as last year 700 taels worth of them were supplied", p.156	17,480.Ps. Salfpotten / vleskens / cleene pothens / scheerbeckens [...] T.700. (軟膏壺、瓶、小壺、ひげ皿)	仕訳帳 1668.10.05 NFJ862
7	"Deshima register" 1669.11.07	"9100 various gallipots and flagons" (contracted), p.156	9100 stx diversche salffpotten en flessen (様々な軟膏壺と瓶)	長崎オランダ商館長日記 1669.11.07 NFJ 83
8	"Deshima register" 1670.12.21	"for 18,200 gallipots and phials and mugs, etc." (agreement with the porcelain makers) p.157	18200 stx salffpotten, flessies en croesen etc (軟膏壺、小瓶、コップ)	長崎オランダ商館長日記 1670.12.21 NFJ 84
9	"Batavia orders" 1676.06.08	"50 large gallipots, 50 painted large gallipots [...], 200 gallipots of six, 600 of four, 600 of three, 800 of two, 1500 of one, 2000 of one half and 2000 of one quarter of a Dutch pound contents, and 3000 of three, 4000 of two, 6000 of one and 4000 of one half Dutch ounce contents.", (order, [個数合計24800]), p.164	No.1. groote salffpotten ... Ps 50./ 2. d <sup>2</sup> geschildert in de winckel te stellen ... "[Ps] 50./ 3. d <sup>2</sup> potten van 6: pondt ... "[Ps] 200./ 4. d <sup>2</sup> van ... 9: pond. ... "[Ps] 600./ 5. d <sup>2</sup> van ... 3: pond. ... "[Ps] 600./ 6. d <sup>2</sup> van ... 2: pond. ... "[Ps] 800./ 7. d <sup>2</sup> van ... 1: pond ... "[Ps] 1500./ 8. d <sup>2</sup> van ... 1/2: pond ... "[Ps] 2000./ 9. d <sup>2</sup> van ... 1/4: pond ... "[Ps] 2000./ 10. d <sup>2</sup> van ... 3: oncen. ... "[Ps] 3000./ 11. d <sup>2</sup> van ... 2: oncen ... "[Ps] 4000./ 12. d <sup>2</sup> van ... 1: once ... "[Ps] 6000./ 13. d <sup>2</sup> van ... 1/2: once ... "[Ps] 4000. (全て軟膏壺 [個数合計24800])	注文書 1676.06.08 NFJ 307
10	"order" 1677	"400 large gallipots, 400 middle-sized, 400 small and 400 one size smaller yet", (order, [個数合計1600]) p.164	1600: stx Salf potten te weten/ 400: stx groote. / 400: D <sup>2</sup> gemeene. / 400: D <sup>2</sup> cleene. / 400: D <sup>2</sup> noch cleener (軟膏壺)	注文書 1677.06.12 NFJ 308
11	"Batavia orders" 1678.06.29	"400 gallipots of two, 400 of one half, 300 of one quarter of a Dutch pound contents", (order, [原本と内容が相違。フォルカーの誤写?]) p.165-6	600. salffpotten van 2 pond jeder/ 400. d <sup>2</sup> ... van 1 " - [pond jeder] / 400. d <sup>2</sup> ... van 1/2 " - [pond jeder] / 300. d <sup>2</sup> ... van 1/4 " - [pond jeder] (軟膏壺)	注文書 1678.06.25 NFJ 309

の瓶の形は、常に *Gallipot* としか呼ばれないわけではなく、ヨーロッパの研究書には *Bottle* (瓶) という名称の使用例も多い。

## 8 まとめ

公式貿易の記録では、1650年頃に明末清初で中国磁器の輸出がストップし肥前地方へ磁器の注文を切り替える移行期間であるとともに、オランダやモカへの大量輸出が軌道に乗る以前の1652年より1659年までは、専ら在バタヴィアや台湾のオランダ東インド会社関連機関向けの医療製品が輸出されていた。要するに、このことは会社の実用品が商品に先行していたことを意味している。こうした医療製品の貿易が輸出用磁器の生産や物流体制を整え、その直後1660年代以降の肥前磁器の大量輸出を成功に導いた、と考えられる。

薬壺生産の数量の規模は大きく、1652～1679年の現存文書上では106,836個を上回ると推測される。その医療製品全体に占めるおおよその割合は約67%と推量された。一方、現在までに所在が確認できる伝世品と発見された出土品の器種の構成をみても、薬壺は他の医療製品の数量を上回ると考えられる。つまり、文書内容と出土品の状況が矛盾していないことが確認できる。

1652年より1659年までの送状により、従来の研究において見落とされていた取引の存在、具体的な器種別の数量、器の容量、容量別数量、購入先、価格、梱包などの詳細が明らかとなった。また1650年代には、日本にはない西洋医学のための道具を作るため、薬壺や薬瓶がバタヴィアから送らせた見本に基づいて製作されたことも判明した。医療用の壺や瓶を見本に基づいて製作することは1653年に始められた。以来、見本についての記載は繰り返し送状にみられるため、薬壺や瓶の見本に倣った製作が継続されていたことも証明された。

一方、本研究においては、フォルカー氏の研究に軟膏壺と瓶との誤認を招く翻訳語が使用されたケースがあったことが明らかとなった。この曖昧な翻訳語が発端となり、フォルカー氏の研究を参照するかぎり、最も生産量の多い医療製品の器種を把握することの難しい状況が生じたのである。本論では東インド会社文書に基づいて、彼が「ガリポット *gallipots*」と翻訳した部分の多くは「軟膏壺 *salfpotten*」であること、フォルカー氏が挙げた記録の中で生産量が最も多い医療製品も薬壺であったことを確認した。

フォルカー氏の陶磁史料の研究は、幅広い研究のニーズに応える大規模な内容が評価され、約半世紀を経た現在もなお国内外で盛んに参照されている。しかしその一方で彼の研究が、その引用の頻度にも関わらず改善すべき点が少なくないことは、すでに複数のオランダの専門家により指摘され、もはや定説となっている。この「ガリポット」の一件は、史料紹介を翻訳文で行い、原文を掲載しなかったことによりひき起こされた史料を扱う方法と精度の問題が陶磁史研究の現場を実際に混乱させた具体例であり、陶磁史料の原典を参照する意味を再認識するための事例としてこそ重要である。本研究では日本商館文書の原本を調査し、フォルカー氏の研究を出発点としてつつその問題点を探ることにより、陶磁貿易の実態を新たに解明することができることを学んだ。陶磁史の領域においても、文書の原本を使用することによってより精度の高い歴史研究を実践することを今後の課題としたい。

<主要参考文献>

石田千尋『日蘭貿易の史的研究』吉川弘文館 2004年

拙稿「オランダ東インド会社文書における肥前磁器貿易史料の基礎的研究—1650年代の史料にみる医療製品取引とヨーロッパ陶磁器の影響—」『武蔵野美術大学研究紀要』No.33 2002年

櫻庭美咲・藤原友子「日蘭貿易における陶磁史料の研究—肥前磁器製医療製品を中心に—」『鹿島美術研究年報第19号別冊』鹿島美術財団、2002年11月

フィアレ・シンシア、河島綾乃訳 「オランダ向け日本磁器：オランダ東インド会社の記録」展覧会図録『古伊万里の道』九州陶磁文化館、2000年

山脇悌二郎「貿易篇」『有田町史』商業編Ⅰ 有田町、1988年

山脇悌二郎『長崎のオランダ商館』中央公論社、1980年

T.フォルカー著 前田正明訳「東洋の磁器とオランダ連合東インド会社」『陶説』日本陶磁協会、1979～84年（Volker, 1954の邦訳）

西田宏子「古伊万里 絢爛たる磁器の世界」『日本陶磁全集23 古伊万里』中央公論社、1976年

Impey, O., "Japanese export Porcelain", Catalogue of the collection of the Ashmolean Museum, Oxford, Hotei Publishing, Amsterdam, November 2002

Espir, H., 'What is a Gallipot?', "OCS Newsletter" No. 8, January 2000

Gawronsky, J., "De equipage van Hollandia ende Amsterdam: bedrijvigheid van de VOC in 18de-eeuws Amsterdam", Amsterdam, 1996

Savage, G., Newman, H., "An Illustrated Dictionary of Ceramics", Thames and Hudson, reprinted 1992

Vialle, C., 'De Bescheiden van de VOC betreffende de handel in Chinees en Japans porselein tuseen 1634 en 1661' in "AZIATISCHE KUNST 1992", Mededelingenblad van de Vereniging van Vrienden der Aziatische Kunst, 1992

Jenyns, S., "Japanese Porcelain", Faber and Faber, 1965, reprinted 1979

Koning, D. A. W. "De oude apotheek", Bussum, 1966

Volker, T., "Porcelain and the Dutch East India Company as recorded in the DAGH-REGISTERS of Batavia castel, those of Hirado and Deshima and other contemporary papers 1602-1682", Mededelingen van het Rijksmuseum voor Volkerkunde, Leiden, 1954

De Haan, Dr. J. F., "Oud Batavia", Batavia, 1922, eerste Deel

<主に使用した史料>

HET ARCHIEF van de NEDERLANDSE FACTORIJ IN JAPAN (NFJ), Het national archief, Den Haag

Colenbrander, H. T., "Dagh-Register gehouden int Casteel Batavia van't passerende daer ter als over geheel Nederlands-India", 31 vols., The Hague, 1887-1931

付記 挿図1、2は展覧会図録『古伊万里の道』（九州陶磁文化館 2000年）より転載した。